

2019年度の資金運用結果について

2019年度の世界経済は前年度に引き続き拡大を続けましたが、年度末にかけて新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により経済活動が停滞することとなりました。こうしたなか、日本経済も緩やかながら成長を持続しましたが、10月の消費税率の引上げなどから先行き景気の不透明感は根強く、長期金利は依然低位な水準にとどまり、為替相場も概ね1ドル=108円を挟んでの狭いレンジ内での推移となりました。

このような投資環境において、本学では「2019年度資金運用方針」に基づく資金運用に臨み、2019年度の有価証券の運用収益は5.5億円（利回りは1.3%）となりました。

以下に2019年度の運用結果についてご報告いたします。

1 国内債券

国内債券については、将来の金利上昇を考慮しつつ、中期ゾーン（期間3～5年）でラダー型ポートフォリオ^{（注1）}を構築することを基本とし、一部利回り確保の観点から長期債を購入しました。また前年度に引き続きグリーンボンド^{（注2）}などのESG投資^{（注3）}にも取り組み、「投資リターンの向上」のみならず「社会的リターンの向上」にも注力しました。

国内債券による運用収益は1.9億円（利回り0.7%）となりました。

2 外国債券

外国債券については、将来の為替動向を考慮しつつ、長期ゾーン（期間8～10年）でのラダー型ポートフォリオを構築する購入を計画していましたが、為替相場が基準とする水準に達しなかったため新規購入を見送りました。

外国債券による運用収益は1.6億円（利回り2.4%）となりました。

3 国内株式

国内株式については、「関西大学発新事業創出支援基金」（特定資産）^{（注4）}への原資を確保することを目的に、高配当のESG銘柄を投資対象とする委託運用を開始しました。

これにより、ESG企業から受け取る配当金を用いて次代を担うベンチャー・シーズの事業化を支援する枠組みを構築しました。

国内株式による運用収益は1.5億円（利回り7.6%）となりました。

4 その他

仕組債等による運用収益は0.5億円（利回り1.2%）となりました。

（注1）各償還年限の割合が均等となる銘柄から構成されるポートフォリオ

（注2）温暖化対策や環境プロジェクトなど環境保全に用途を限定した債券

（注3）環境（Environment）、社会（Social）、企業統治（Governance）に取り組む企業を重視・選別する投資手法

（注4）学生や研究者が育んだベンチャー・シーズの事業化支援を目的に設立